

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102541		
法人名	株式会社 グループホーム		
事業所名	六条の杜		
所在地	岐阜市六条片田一丁目21-6		
自己評価作成日	平成26年1月8日	評価結果市町村受理日	平成26年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102541-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南瀬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成26年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

拘束されることなく自由でのびのびとホームで生活していただくことに力を注いでいる。 毎日生きがいを持って生活していただくこと。 イベントに沿った献立を作り皆さんに楽しんでいただきました。 玄関が開放されていて数名の方はいつでも外の駐車場で過ごされます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームでは利用者ののびのびとした暮らしを支えるために、十分な利用者の見守りを続けている。そして利用者一人ひとりの生きがいはどのようなことなのか、職員が情報交換して話し合いを重ね確認している。管理者は職員の対応方針の統一を図り、利用者それぞれの豊かな暮らしを目指してケアしている。また食事は利用者と職員が話をしながら楽しんでおり、月一回イベント食を取り入れ工夫している。全職員が介護に対する思いを共有し、そのチームワークを管理者が支えている。ホームのケアに対する確固たる姿勢がみられ、これからの活動を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を申し送りのあとに復唱し改めて理念を心に刻んでケアに入るよう心がけている。独自の六条の杜の理念を考えてともに復唱している。	「六条の杜」の理念も定着し、その時々の場合面やあるいは職員の話し合いの時に実践と結びつけるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1ヶ月に1回廃品回収があり町内の所定の所にダンボールや新聞を出している。散歩のときに状況に応じて話をしたり挨拶をしている。	ホームが住宅地にあり、若い世帯も老人世帯も多い。周囲の畑で作業している方と挨拶を交したり会話したりと、日常的に自然な付き合いができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第3火曜日に介護相談日をもうけることとし地域との交流に努めている。(回覧板でまわしてもらう。)			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防団の部長に出席いただき避難訓練での援助など活発な意見が出それを下に考え実践し向上に勤めている。	市の担当者、地域包括支援センター、民生委員や町内会長などのメンバーで、昨年は看取りや防災についての話し合いが活発にされている。地域消防団の協力も得て、具体的に積極的な検討がなされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とはパンフレットの変更や利用者とのトラブルなど非常に密接に連絡を取り助言いただいたり指導していただいている。	市担当者の交代があったが、困難事例の相談や介護保険申請の機会の他に運営推進会議を通して関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実際に自動ドアでいつでも出て行けるようにしております。夜間20:00より朝7:00までは防犯の為施錠しております。	玄関の施錠や言葉かけに配慮し、拘束のないのびのびとした暮らしを目指して実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力の虐待はありませんが、精神的な虐待と言葉の虐待は知らずに使っていることが多くありましたが最近は殆どみられずもし行なっている場合はサポーター同士で注意を払っています。虐待防止マニュアルの勉強会を行なっている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者自ら権利擁護推進員養成研修を受け 毎月六条の杜の会議で勉強会を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	24年度において利用料の改定があり文書をもってご理解いただき電話でも必要な疑問にはご説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において利用者の家族より要望意見などの発表がありそれを下に運営に繁栄させていただいています。	家族の訪問は毎日であったり週1回、ほとんどみえないなど様々である。訪問時に話を聴くようにしているが、意見、要望を受け取るのが難しい状況である。	家族からの意見、要望は出にくいという前提から、積極的な働きかけで運営に反映させる取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、六条会議において職員の意見を聞き経営会議にもって行き提案など代表者に聞いていただいています。人事考課のあとに面談を儲け意見を聞いている。	日々の気づきを毎月の定例会議で出し合い、話し合いで運営に活かしている。また職員一人ひとりの意見や気づきを聞く機会を設け、様々な場面での吸い上げの仕組みを作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回人事考課をすることにより職員の勤務状況など把握することに努めている。其のあと面談などにより意見を聞きながら向上心をもってもらようよう勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の運営目標に施設内研修と施設外研修とあり月ごとに勉強会を行なっている。施設外研修は25年度はあまり参加できなかったのが今年の目標にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	過去は他の施設にサークル活動に参加していたが現在は無い。今後参加するようにしていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が何故このホームに入所しなければならなかったのかをサポートが納得しケアに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	他の施設で暴力的な行為とか暴言など我がまま放題の利用者が当ホームに見えてから穏やかになられ家族が困らせていないか心配されていましたが今は安心していただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家での自立生活が難しく歩行も困難で人との交流も難しく思えた方が今は歩行も見守りでよくなりホームでの団体生活に溶け込んでおられる為自立できたら家庭へもどられデイサービスを使用しながらの生活も考えられるのではと考えます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に洗濯をたたんでいただくとかモップの掃除を助けていただくとか料理に参加していただくなど毎日話し合いながら家事に参加していただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望や期待を伺い利用者様との良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	利用者がお友達に電話を掛けたいといわれるときがあり、ホームの電話を使っている。面会にも来ていただいています。	馴染みの美容院へ家族の協力を得て出かけたり、友人との電話での会話を支援している。また近所の喫茶店も馴染みの店となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等は両棟合同で行なっている。会話がトラブルにつながる場合はサポートが間に入るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や本人より相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を第一に考えてできることとできないことを話し合いながらケアに望んでいる。	日頃の会話などで情報を収集し、希望や意向を把握している。野菜作り・旅行を希望される方に調整を図り実現するなど、できることは取り組みを進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護記録やアセスメントシートにより一人ひとりの馴染みや生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日でも長く健康で快適な生活を送って頂くよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、ケアプランやアセスメントを各自担当者を決め六条会議で発表してもらいます	モニタリングは月1回担当者が利用者3名の評価を行い、見直しにつなげている。しかし実施した評価が記録へ記載されていない。	実践されたケアを評価し次の計画に繋げるよう、情報を蓄積していく仕組みが必要を思われる。評価を含めた個人記録を皆で検討されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様の気づいたことや実践したことなど六条の杜の独自の申し送り帳と個別ケア表にてにサポーター全員にいきわたるよう記入し六条会議などで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の毎日の状況に応じて型にはまらないケアを考えている。 日々、努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護・利用・ボランティア・マッサージ・司会などここにはないサービスを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は訪診を行っている所は4ヶ所ありそのうち1ヶ所は家族の希望するかかりつけ医である。	かかりつけ医による継続的な支援を受けており、状態に応じて24時間体制をとっている。また訪問看護も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや伝達ノートなどで、みんなが状況を把握できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院にサマリーを渡し状況を提供している。かかりつけ医の病院に入院するケースが多く連携が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族がホームでの見取りを望まれる場合は主治医と連携をとりながら支援に取り組んでいる。	看取りについてはホーム利用開始時にマニュアルに沿って家族に説明を行い、意向の確認をしている。また状態に応じて、主治医、看護師を交えて話し合いを行い対応している。開設以来25名の看取りを行い、職員の看取りに対する体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル・アクシデント対応マニュアルを常時見えるところにおき勉強会などで取り上げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い〈昼夜ともに〉対応している。スプリンクラーや火災報知機は設置済み。	訓練後の反省会により、避難経路の暗がりにソーラー電灯を設置するなど改善計画を立てて実践している。また避難経路の増設についても検討中である。	避難訓練後の反省会を通して地域の協力体制について協力を呼びかける等地道な努力を続けるとともに、災害時に備えて非常用食料の準備など早急の対応を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇対応マニュアルなどにより言葉掛けには気を使っている。接遇勉強会を定期的に行なっている。	転倒リスクの高い人が立ち上がった場合でも、側に寄り添いダメと言わないなど、尊厳を損なわない言葉遣いと対応を行っている。勉強会では事例を取り上げ、また対応に問題がある時はその都度注意喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴前の着替えの準備として好きな服を選んでいただいている。おやつなど自分の好みのものを頂いてもらうようお盆に入れてとっていただいている。飲み物も本人の意思を聞いて出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクなどみんな行なうことは時間が決まっているのであとは編み物をしたり居室でテレビを見たり自由に過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり美容院へ行ったりそれぞれ身綺麗にされています。レクなどではおしゃれな服を着てブローチなどアクセサリーをつけたりスカーフをつけて参加されます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養委員が利用者の好きな食べ物のアンケートをとり献立に取り入れている。食事や片付けは職員と一緒にしている。時には野外で弁当を買ってきて食べることもある。	利用者は職員と話をしながら食事を楽しんでいる。また月一回イベント食を取り入れたりと食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量のチェック表をつけこの摂取量を把握している。栄養面では栄養委員会によりカロリー計算することにより栄養のバランスを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしたというチェック表がある。週1回歯医者による口腔ケアの指導がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居当初はオムツの使用をしていたが必要となくなっている利用者が数名いる。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合わせて声かけ誘導している。利用者の排泄自立を目指し、利用開始時はオムツを使用していた方が、排泄支援によりはずすことができた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に気をつけたり毎日体操などの運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1週間に3回入っていただいています。 入浴は好きな方ばかりでゆっくり入っていたりできるよう支援している	入浴をゆっくり楽しめるよう時間をとっている。要望を確認して利用者に合わせて実施しており、朝の入浴を希望される時も対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息はいつも状況に応じて考えている。夜利用者同士の団欒を考えて21時頃まで話をしたりみんなでテレビの歌を聴いたりなごやかに過ごせるように考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の出した薬をサポートがもう一度確認し利用者に服薬していただいている。確認する為利用者一人ひとりがなにを飲んでいるかがわかる。薬の説明書を読んだりして意識は高まっている。 いつでも職員が薬の効能を見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に抹茶を立てていただきお茶会を催しております。社交ダンスなど昔踊って見えた方がありダンスパーティーなど時々行なっております。 掃除、洗濯干しや茶碗洗い等生活での生きがいも持っていただくよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日お天気の日には散歩に出かけている。何か欲しいものがあれば外出レクといってコンビニかアピタまで買い物に出かける。	基本的には毎日散歩できるよう取り組んでいる。玄関は屋間解放されており、自由に戸外へ散歩される方もいる。散歩時は、スタッフが付き添って見守りしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に1,000円程度の現金を持っていただくことにより安心感を持っていただいております。 お出かけツアーを毎月1回行い自分で財布からお金を払っていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面飾りを職員とともに作成している	室温の調節がされ、過ごしやすい環境が作られている。また3室に1つの割合でトイレが設置され、トイレ誘導がスムーズに支援できる作りになっている。台所での食事の準備が家庭的な雰囲気を醸し出し、ゆったりした時間の流れを感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーのテレビの前のソファなどで気のあったもの同士で和気藹々と過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居のときにできるだけ今まで使用していたものを持ってきていただくようお願いしている。	居室は馴染みのある家具や家族写真が持ち込まれ、落ち着いた雰囲気である。埃もなく清潔感があり、日が差し込み居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには三方に手すりが着いています。洗面所も居室ごとにあり自立をうながしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102541		
法人名	株式会社 グループホーム		
事業所名	六条の杜		
所在地	岐阜市六条片田一丁目21-6		
自己評価作成日	平成26年1月8日	評価結果市町村受理日	平成26年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102541-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307
訪問調査日	平成26年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

拘束されることなく自由でのびのびとホームで生活していただくことに力を注いでいる。 毎日生きがいを持って生活していただくこと。 イベントに沿った献立を作り皆さんに楽しんでいただきました。 玄関が開放されていて数名の方はいつでも外の駐車場で過ごされます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を申し送りのあとに復唱し改めて理念を心に刻んでケアに入るよう心がけている。独自の六条の杜の理念を考えてともに復唱している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1ヶ月に1回廃品回収があり町内の所定の所にダンボールや新聞を出している。散歩のときに状況に応じて話をしたり挨拶をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第3火曜日に介護相談日をもうけることとし地域との交流に努めている。〈回覧板でまわしてもらう。〉		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防団の部長に出席いただき避難訓練での援助など活発な意見が出それを下に考え実践し向上に勤めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とはパンフレットの変更や利用者とのトラブルなど非常に密接に連絡を取り助言いただいたり指導していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実際に自動ドアでいつでも出て行けるようにしております。夜間20:00より朝7:00までは防犯の為施錠しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力の虐待はありませんが、精神的な虐待と言葉の虐待は知らずに使っていることが多くありましたが最近は殆どみられずもし行なっている場合はサポーター同士で注意をしあっています。虐待防止マニュアルの勉強会を行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者自ら権利擁護推進員養成研修を受け 毎月六条の杜の会議で勉強会を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	24年度において利用料の改定があり文書をもってご理解いただき電話でも必要な疑問にはご説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において利用者の家族より要望意見などの発表がありそれを下に運営に繁栄させていただいています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、六条会議において職員の意見を聞き経営会議にもって行き提案など代表者に聞いていただいています。人事考課のあとに面談を儲け意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回人事考課をすることにより職員の勤務状況など把握することに努めている。 其のあと面談などにより意見を聞きながら向上心をもってもらよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の運営目標に施設内研修と施設外研修とあり月ごとに勉強会を行なっている。施設外研修は25年度はあまり参加できなかったので今年目標にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	過去は他の施設にサークル活動に参加していたが現在はない。今後参加するようにしていきたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が何故このホームに入所しなければならなかったのかをサポートが納得しケアに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	他の施設で暴力的な行為とか暴言など我がまま放題の利用者が当ホームに見えてから穏やかになられ家族が困らせていないか心配されていましたが今は安心していただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家での自立生活が難しく歩行も困難で人との交流も難しく思えた方が今は歩行も見守りでよくなりホームでの団体生活に溶け込んでおられる為自立できたら家庭へもどれデイサービスを使用しながらの生活も考えられるのではと考えます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に洗濯をたたんでいただくとかモップの掃除を助けていただくとか料理に参加していただくなど毎日話し合いながら家事に参加していただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望や期待を伺い利用者様との良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がお友達に電話を掛けたいといわれるときがあり、ホームの電話を使っている。面会にも来ていただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等は両棟合同で行なっている。会話がトラブルにつながる場合はサポーターが間に入るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や本人より相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を第一に考えてできることとできないことを話し合いながらケアに望んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護記録やアセスメントシートにより一人ひとりの馴染みや生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日でも長く健康で快適な生活を送って頂くよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、ケアプランやアセスメントを各自担当を決め六条会議で発表してもらいます		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様の気づいたことや実践したことなど六条の杜の独自の送り帳と個別ケア表にてにサポーター全員にいきわたるよう記入し六条会議などで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の毎日の状況に応じて型にはまらないケアを考えている。 日々努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護・利用・ボランティア・マッサージ・司会などここにはないサービスを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は訪診を行っている所は4ヶ所ありそのうち1ヶ所は家族の希望するかかりつけ医である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや伝達ノートなどで、みんなが状況を把握できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院にサマリーを渡し状況を提供している。かかりつけ医の病院に入院するケースが多く連携が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族がホームでの見取りを望まれる場合は主治医と連携をとりながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル・アクシデント対応マニュアルを常時見えるところにおき勉強会などで取り上げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い〈昼夜ともに〉対応している。スプリンクラーや火災報知機は設置済み。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇対応マニュアルなどにより言葉賭けには気を使っている。接遇勉強会を定期的に行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴前の着替えの準備として好きな服を選んでいただいている。おやつなど自分の好みのものを頂いてもらうようお盆に入れてとっていただいている。飲み物も本人の意思を聞いて出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクなどみんな行なうことは時間が決まっているのであとは編み物をしたり居室でテレビを見たり自由に過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり美容院へ行ったりそれぞれ身綺麗にされています。レクなどではおしゃれな服を着てブローチなどアクセサリーをつけたりスカーフをつけて参加されます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養委員が利用者の好きな食べ物のアンケートをとり献立に取り入れている。食事や片付けは職員と一緒にしている。時には野外で弁当を買ってきて食べることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量のチェック表をつけここの摂取量を把握している。栄養面では栄養委員会によりカロリー計算することにより栄養のバランスを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしたというチェック表がある。週1回歯医者による口腔ケアの指導がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居当初はオムツの使用をしていたが必要としなくなっている利用者が数名名いる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に気をつけたり毎日体操などの運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1週間に3回入っていただいています。 入浴は好きな方ばかりでゆっくり入っていただけるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息はいつも状況に応じて考えている。夜利用者同士の団欒を考えて21時頃まで話をしたりみんなでテレビの歌を聴いたりなごやかに過ごせるように考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の出した薬をサポートがもう一度確認し利用者に服薬していただいている。確認する為利用者一人ひとりがなにを飲んでいるかがわかる。薬の説明書を読んだりして意識は高まっている。 いつでも職員が薬の効能を見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に抹茶を立てていただきお茶会を催しております。社交ダンスなど昔踊って見えた方がありダンスパーティーなど時々行なっております。 掃除、洗濯干しや茶碗洗い等生活での生きがいも持っていただくよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日お天気の日には散歩に出かけている。 何か欲しいものがあれば外出レクといってコンビニかアピタまで買い物に出かける。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に1,000円程度の現金を持っていただくことにより安心感を持っていただいております。 お出かけツアーを毎月1回行い自分で財布からお金を払っていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面飾りを職員とともに作成している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーのテレビの前のソファなどで気のあったもの同士で和気藹々と過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居のときにできるだけ今まで使用していたものを持ってきていただくようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには三方に手すりが着いています。洗面所も居室ごとにあり自立をうながしています。		